

## 0.1 課題内容

平成30年版情報通信白書の中から一つまたは複数の図表を選択し、その図表について考察してください。

## 0.2 事実と考察

中国においてモバイル決済が急激に発展した理由について考察する。

図1<sup>\*1</sup>は、2012年から2016年までの5年間で中国におけるモバイル決済の市場規模の変化である。

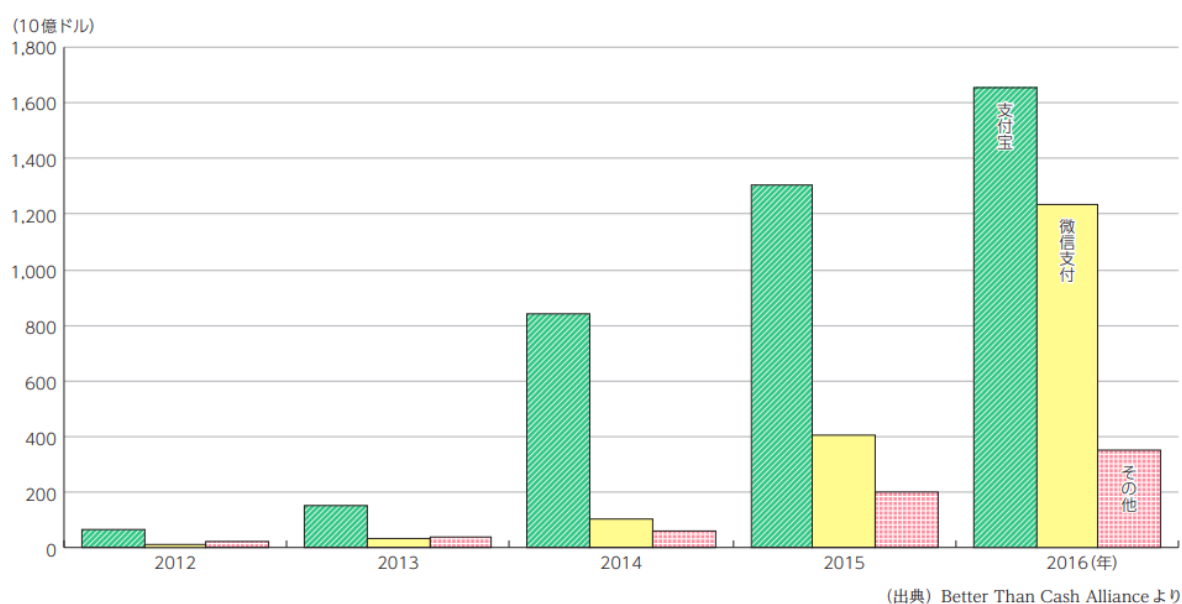


図1 中国におけるモバイル決済の市場規模比較

中国のモバイル決済においては、支付宝（アリペイ）と微信支付（ウィーチャットペイ）が2大サービス提供者となっている。

図1を見ると、支付宝では2012年の決済金額は700億ドルであったが、2016年度の決済金額は1兆7000億ドルであった。すなわち、4年間で決済金額は24.3倍増加したと言える。また、ライバルサービスである微信支付では2012年の決済金額は116億ドルであり、4年後には1兆2000億ドル（2012年の100倍以上）まで成長した。

なお、2017年12月現在、両者は全モバイル決済市場の90%以上シェアを占めている。

<sup>\*1</sup> 総務省 平成30年版情報通信白書 第2章 補論 中国の事例 図表1,  
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/pdf/n2700000.pdf>, 2019-4-10閲覧

次に、日本と中国のATM設置台数を比較する。

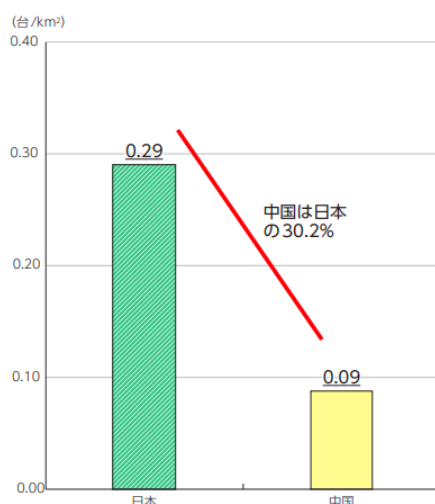


図2 中国におけるモバイル決済の市場規模比較

図2<sup>\*2</sup>は、国土面積あたりのATM設置台数である。日本では0.29台/km<sup>2</sup>であるのに対し、中国では0.09台/km<sup>2</sup>と、3倍以上の開きがあることがわかる。

また、中国では偽札が多く出回っており、銀行のATMから偽札が引き出されるケースもまれに発生している。<sup>\*3</sup>

以上の事実から、中国においてモバイル決済が急速に発展した理由について考察する。

まず、考えられる理由として、サービス開始にかかるコストである。従来の銀行のネットワークシステムは整備に莫大な費用がかかる上に、多くの人手や時間がかかる。しかし、モバイル決済のシステムはインフラ整備をほとんど必要とせず、インターネットへの接続が可能な機器と、ネットワーク環境があれば導入することが容易である。経済的、時間的なコストが低いことがモバイル決済の普及に繋がった一番の要因であったと考える。

加えて、ATMの設置状況は日本と比較すると劣っている。ATMの設置状況が悪ければ、現金を入手する際に不便である。しかし、モバイル決済を使用すれば、わざわざ現金を用意することなく、買い物をすることが可能となる。中国国内の現金入手性もまたモバイル決済の発展に寄与したと考えることができる。

また、中国では偽札が多く出回っていることもモバイル決済の普及に影響を与えていると考えられる。偽札が多いということは、現金の信用が低いということである。現金よりも確実性のあると考えられ、普及を後押ししたと考えられる。

<sup>\*2</sup> 総務省 平成30年版情報通信白書 第2章 補論 中国の事例 図表3,

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/pdf/n2700000.pdf>, 2019-4-10閲覧

<sup>\*3</sup> 外務省 海外安全ホームページ: 安全対策基礎データ 中華人民共和国(中国), 2019-4-12閲覧